

横須賀市少林寺拳法協会

1983 年創立

広く地域社会に貢献できる団体を目指して

「人づくりによる国づくり・やさしく、たくましい青少年育成」を推進

1. 協会設立の背景

日本に創始され半世紀を越え、まだまだ他の団体などと比べると歴史は浅いが、その源流は今から約 1500 年前、中国は河南省にある嵩山少林寺に正統仏教を伝えるためはるばる印度から渡来した達磨大師に始まる。その後、中国で発達した拳法は、拳匪の乱といわれた義和団事件以後歴史上からほとんど姿を消した。昭和の初期中国に渡られた少林寺拳法創始者宗道臣は、北少林義和門 21 代を継承され、日本の敗戦を機に帰国し日本に移植されたのが日本の少林寺拳法の始まりである。

当時日本は、占領下にあり人々の心は荒廃し完全に茫然自失してしまい、大多数が将来の希望もなく右往左往していたのが実況であった。宗道臣師家は、祖国日本を平和国家として再建するには、社会正義を実現する勇気と行動力にあふれた心身ともにたくましい青少年をひとりでも多く作り出す以外にないと考え、昭和 22 年香川県多度津町に道場を構え、少林寺拳法を行とする、拳禅一如力愛不二自他共楽の法を説き始めたのである。人間完成の行としての無手の格闘術は、いつのまにか多くの青少年の共感を呼び急速に全国に浸透していった。これまでの会員数は、180 万人。国内支部数は、2500、現役拳士数は、約 3 万人。また、国外（アメリカ・イギリス等）は、40 か国・1 地域、25 万人の拳士が、日々、修練をしている。

横須賀市における少林寺拳法の活動原点は、昭和 47 年 3 月、四国香川県に連盟本部をおく少林寺拳法連盟の三崎敏夫範士が、関東地区の普及振興の拠点として支部を開設したのが始まりである。

横須賀学院の体育館から練習を開始したが、その後、初期の門下生であり、当時、武山中学校の校長であった浅倉好量副会長の薦めもあり、同校体育館に練習場所を移転した。翌年の秋には初めての創立記念大会が開催され、また

昭和 49 年の秋には鎌倉に支部が開設された。

昭和 52 年、三崎敏夫範士が諸般の事情により少林寺拳法連盟本部に戻るようになったが、昭和 53 年には、三浦半島地区で組織の普及拡大を図るため、湘南三浦ブロックが結成され、初代ブロック長には、横須賀住友重機支部長岩堀紀久が就任し、本部指導者講習会、県連盟主催の各種講習会、地区主催の昇級審査会・合同練習など独自性を持った行事などの開催を積極的に展開し、青少年育成を目的とした団体としての存在感を内外に向けて着実に歩み始めたのこのころからであった。



2. 設立時の動き

昭和 51 年鎌倉市体協加盟、52 年三浦市体協加盟と相次ぎ体協に加盟がなされたことに刺激され、横須賀においてもその気運が高まり、昭和 55 年に加盟申請を提出した。その間 57 年 5 月に第 1 回横須賀三浦地区演武大会を常葉中学校体育館にて開催するなど、多くの市民にアピールした。そして昭和 58 年 5 月、ついに正式加盟の朗報を聞くに至った。その間、関係諸氏の暖かいご理解、ご協力と、ご賛同を賜り、体育協会加入への道は開かれた。

3. 設立後の歩み

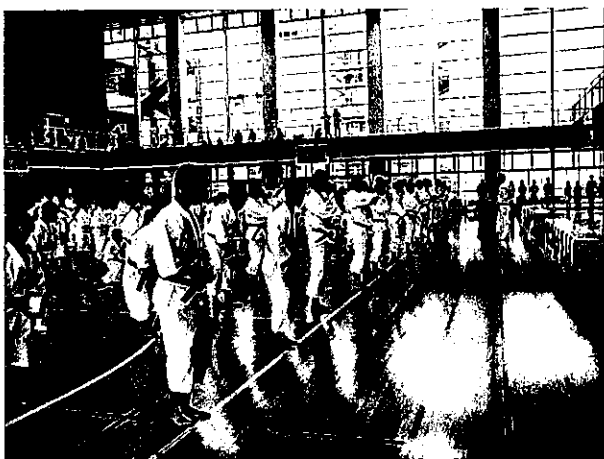
正式加盟を果たした昭和 58 年 5 月、久里浜

中学校体育館において150人の会員が集い、第2回横須賀三浦地区演武大会を開催した。続いてその年の7月には横須賀衣笠支部の大会が行われた。このころから特に年少拳士の増加が目立ち、同時に社会的にも青少年の非行問題が大きくとりざたされ、「人づくりの手段」としての少林寺拳法に対する期待が高まりだしたのもこのころからであった。

また、昭和59年4月には加盟1年目にして防大拳法部が団体として、平成4年には当協会の生みの親である特別顧問の三崎敏夫範士が、続いて平成9年には、浅倉好量副会長が受賞するといったこれら栄誉ある功績は、少林寺拳法協会の活動の礎とし記念すべきものであり、今日でも多くの拳士の心の糧となっている。

昭和59年10月7日、第57回市民体育大会を久里浜中学校にて開催して以来、毎年実施されており、多くの拳士が日ごろの修練などの発表の場として恒例行事となった。

平成15年11月、ブロック結成30年・横須賀市体育協会加盟25年を記念した大会が三崎敏夫範士を迎え、佐藤良一大会会長・鈴木大資大会実行委員長として開催した。



また、開催場所も竹内英明ブロック会長のご尽力により、新設された県立保健福祉大学にて、出場拳士300人を含めた1400人が一堂に相集った過去最大規模の大会となり、これまでの活動が結ばれたものとなった。

4. 現状と課題(この10年と今後)

(1) コロナ禍の影響

2019年末から2023年までの間、発出された、“新型コロナウイルス”による緊急事態宣言は、社会、経済、文化に大きな影響を与えた。

特にこの間のスポーツ関係者の忤怩たる思い

は、想像以上のものであった。その影響は、今日もなお続いている。そのような中、スポーツへの関心を高める施策の必要性。そしてスポーツを行うことの重要性を周知することがスポーツの価値を高めることに繋がると考える。当然のことながら官民一体となった取り組みが大事である。

(2) 少林寺拳法の在り方

試合に勝ったから立派な人、負けたからダメな人。少林寺拳法は、人の価値を「勝敗」の2文字のものさしで測ることは無い。そのこと自体、間違っていると思う。少林寺拳法の本質は、「人を育てる」ことにある。日々の修練は、単に、各種大会で成績を残すためのものではない。少林寺拳法は、自己研鑽することで他人のことも考えられる人間を育てることが重要である。少林寺拳法の教えの原点は「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」自分のことも他人のことも考え続けられる人を当協会は、これからも強い信念を持ち、育てて行きたい。一人一人が少林寺拳法の拳士としての自覚を持ち、少林寺拳法の最終目的である「人づくりによる国づくり、青少年の健全育成、平和で豊かな社会の構築」を念頭に今後も修行に精進していきたいと思う。

